

## 「発達障害と心の発達支援」

### ～わかった気にならない子どもの理解～

講師 東京都立小児総合医療センター  
副院長

田中 哲 先生



平成 29 年 7 月 16 日(日)、海南市海南保健福祉センターにて、和歌山県発達障害者支援センターポラリス講演会を開催致しました。今回は、東京都立小児総合医療センター副院長の田中哲先生をお招きしご講演頂きました。「発達障害と心の発達支援 ～わかった気にならない子どもの理解～」というテーマで 2 部に分けてのご講演と、聴講者からの質疑にお応え頂きました。

第一部講演要旨は下記の通りです。

今日はまず、子ども達とどのように生きていくのが幸せかということについて考えたい。戦争や飢餓はないが、不登校やいじめ、虐待、忙しくて時間がないなど今の生活が幸せだと答える子どもはそこまで多くないかもしれない。園や学校の先生方からは、対応が難しい子どもが増えたという話を聞くが、その理由はどこにあるのか。母親も育てにくさを感じている。親として頑張ろうとしたが、子育てを楽しめず煮詰まってしまったという話も聞く。相談したり助けてもらったりできない子育てはしんどいが、懐かない子どもは人に預けにくい。言葉が上手に使えない子どもの親は、伝えてくれないことや言ってもわからないことにイライラするだろう。悪い所が目について、褒めてあげられない関係になってくるかもしれない。待合での様子を見ていても、イライラしている親が増えているように感じる。もう少しほっこりした雰囲気になればと思うが、これに取り組むのは誰の役割だろうか。

心の発達支援とはどういうものか。心は見えないのでイメージしながら考えていきたい。心には骨組みとなる柱があって、それを少しずつ伸ばしていくことで自立できる形になることをイメージするとわかりやすいかもしれない。柱が自立するとなれば、最低でも 3 本は必要だと思う。1 本目は社会性の柱で、自分を大切にしてくれる人が必ずいると思って人とつながる力を表す。2 本目は自己肯定感の柱で、自分は生まれてきてよかった、自分はありのままが良いと思える力を表す。3 本目は自己コントロールの柱で、嫌なことがあってもやっていける力を表す。この 3 本柱を伸ばしていくというモデルをイメージしながら心の発達について段階ごとに説明していきたい。

人間の子どもが他の動物よりも 1 年早く未熟な状態で生まれることは、心の発達においても大きな意味がある。人間の目は他の動物と比べて白目が多く、どこを見ているのか分かりやすい。子どもは母親の目を見ながら、いつも自分を助けてくれる人がいることと、その相手にとって自分はいいものだと思える感覚を心に刻むことになる。また、外へ出かけることを通して、少しずつ社会の枠組みに触れることになる。出かけた先で静かにすることを要求されながら、生きていくには少し我慢しなければならないことを学んでいく。

その後、子どもは人見知りしながら少しずつ他所に慣れていく。お母さんの傍で安全を確保できれば、子どもは外に興味を持ち始める。その時子どもにルールを守る力があれば、外に連れて行ってもらえる機会が増える。外に出ていく時には、失敗しても見捨てられないと思えることが必要で、甘えと背伸びを行ったり来たりしながら新しいことにチャレンジしていくことになる。これができる子どもは園に通うことができるだろう。

小学校では周りがライバルになり、自分達で決めた枠組みを守ることを通して、認められるという体験をする。思春期になると自分が周りと違うということに気づき、そのような自分を良いと言ってくれる人と出会うことが重要になる。この時期には、目標のために頑張るなど自分自身で枠組みを作るようになっていく。青年期では、自分のことを誰も知らない場所で責任をもって仕事をしながら、自分に求められている社会的ポジションを引き受けていくことが課題になる。ただし、この段階の課題を達成しても心の3本柱はまだ自立していない。

自立した人間にとって大切なことは、働くことだけではない。子どもと向き合うことも、自立した大人でないとできない大切な仕事だろう。子どもの社会性を育てるためにはコミュニティが必要になるため、親はコミュニティに根を下ろしていなければならない。子どもの3本柱を育てるためには、親の安定した3本柱を支えにする必要があるが、親自身の3本柱も子どもから認められる感覚を得ることでようやく安定する。このような親子の双方向的つながりである愛着関係を保ちつつ、支えになっている親の柱を徐々にはずしていくことで、子どもの心の3本柱が成長していく。完璧なバランスの3本柱を備えた親はいないが、このようなサイクルで心の3本柱が受け継がれていくのだろう。

第二部講演要旨は下記の通りです。

診断名ではなく子ども自身を理解していくためには、特異な行動の有無よりも何故そのように行動したのかという背景を考えることが大切だろう。後半は、まず心のライフサイクルの視点から発達障害と愛着障害について考えていきたい。

心のライフサイクルにおいて、生まれつき社会性の柱を伸ばしにくいのが ASD の人達だと思う。ASD 特性により、いつも自分を助けてくれると思える人を見つけられなかったり見つけるのが遅れたりすることが、相手の目を見ないことや、あやしても笑わない等の特徴的な行動につながるのだろう。ASD の人達の生き方を考えた場合、周囲の状況よりも自分の気が済むことの優先度が高い生き方をしていることが多い。このような生き方により、自分が納得できるところまで研究を続けた結果ノーベル賞に辿り着く研究者がいる一方、周囲と上手くいかずに困難な状況に陥る人もいる。

生まれつき自己コントロールの柱を伸ばしにくいのが、ADHD の人達だと思う。ADHD 特性により落ち着きにくく、しつけは身に付きにくい。ADHD の人達は、皆が思いつかないような「いいこと」を思いつくと、結果まで考えずに行動してしまう生き方をすることが多い。発明家や芸術家、人を楽しませる仕事に就いて活躍する人達がいる一方、発達特性が生きづらさに繋がる人達もいる。

愛着障害は、養育関係が不適切であることにより、親子の柱の双方向的つながりが上手くいなくなることで起こってくる。心の発達過程が混乱していることは発達障害と共通しているが、養育関係によって上手くいなくなっているのが愛着障害だと言える。愛着障害の子どもは、この人にしがみつけば大丈夫と思える人を見つけられず、親を安全基地として使えないため人間関係が広がりにくい。対人関係のパターンとしては、全く人と関わろうとしない場合もあれば、過度に馴れ馴れしい場合もあるが、どちらも安心して繋がれる人を探し続けているのだと思う。

また、現代社会において心の骨組みが不安定なのは、発達障害や愛着障害の子ども達だけではないだろう。子ども達は皆ストレスや不安を抱えており、そのストレスが強すぎて心の成長が止まってしまうこともある。中でも自己肯定感の柱の成長は、具体的な行動として確認しにくいので、生活が上手いかなくなる等の問題が起こるまで気づかれないことも多い。

自尊感情の課題に取り組むためには、ありのままの自分がいるということ( being )を認めてもらえる居場所としてのコミュニティの存在が重要である。行動( doing )に注目される場所では、周囲と同じように行動できない子ども達が居づらくなるため、安心して過ごせる居場所にはなりにくい。自分を知らない人の中でやっていけるようになることが自立であれば、子どもが社会に出ていく過程において、まずは家庭と社会の間にあるコミュニティに出て、安心できる環境の中で練習していくところから始めたい。コミュニティの中で( being )を肯定してもらえた子どもは、失敗を恐れることなく社会に出ていくための練習ができるだろう。子どもを受け止めて関わっていく際には、診断名だけではなく、特性や生き方について考えることで理解を深めていく必要があると思う。その上で、あなたがいてほしい、あなたがいてよかったと言ってもらうことができれば、子ども達は今の社会に生まれてよかったと思えるのではないかな。

## [ 質疑応答 ]

### ■ 親にも特性があり対応が難しいケースについて

親の発達のバランスだけを問題にしても解決には至らない。支援の仕組みがあるだけでは繋がりにくい親が多いため、まずそこに繋がれるように支援していくことが大切だろう。直接的な子育て支援は拒否される場合もあるが、子ども食堂や学生ボランティアなどを通して家庭が開かれることがある。専門家だけではなく、地域の一員としてそれぞれが持っている力を活かしていくことが大切だろう。産んだ親が子どもを育てなければいけないということはないと思う。バランスのよい親ばかりではないので、代わってもらうことも1つだと思う。難しいことを難しいと言える状況を作っていくことが大切で、そうすることで子どもが育ちやすい地域が増えていくと思う。課題をオープンにした時に、それを受け止めて対応できる力がコミュニティの側にどれだけあるかだと考えている。

### ■ 愛着関係の修復について

家庭では難しい場合もある。子どもにとって絶対に信頼できるという対象が親であれば幸せだが、それを担うのが親でなければならないとは考えていない。愛着関係の修復にはエネルギーと時間がかかるため、一人で抱えると大変になってしまう。場合によっては、『担当になった人は自分のために対応してくれる』というシステムに対する信頼感でもよいのではないかなと思う。

### ■ 緘黙児への対応について

喋れるか喋れないかを問題にされてしまうと、その子どもは余計に喋れなくなるのではないかなと思う。喋ったら次を要求されると思うと不安で喋れなかったという話も聞く。喋っても喋らなくても、あなたはそれで OK だと本人に伝えていくことが重要だと思う。

## ■ 子どもを預けるよりも親が育休をとった方がよいか

働いている方が安定する親もいるし、働かざるを得ない状況の親もいるため一概には言えないだろう。時間をとって子どもと向き合いたい親は産休育休を使えるし、仕事もしたいという親は保育園等に預けられるというように、状況によって親が選択できるとよいと思う。

田中先生には、大変お忙しい中ご講演いただき誠にありがとうございました。参加者の皆様からのご質問にも丁寧にお答えいただきましたことに感謝致します。

末筆になりましたが、田中先生が今後ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。





- ・発達障害について、今まではチェックリスト的診断基準ばかりをとらえていたが、今回の講演を聞いて、ライフサイクルの視点や、人の在り方としての理解というとらえ方もできることを知りました。
- ・おわりに「この子がいるからうちのクラスなんだよね」「この家に生まれてよかった」というところで、少し泣けてきました(←そういう風に言われたい。そういう風な社会になってほしい)
- ・心の発達の骨組みをしっかりと押さえた上で、発達障害や愛着障害について話して頂いたので、とても分かりやすかった
- ・Children First として子どもを中心に、子どもの成長や子どものころ、段階を考えて環境やかかわりを考えていくことの大切さをあらためて実感しました。とても勉強になりました。ありがとうございました
- ・家庭以外でのコミュニティでの拠り所に、支援者・教育者がなれるように…と、大切なことの再確認になりました。質疑応答が参考になりました
- ・障害の特性そのものに視点をあてるのではなく、ライフサイクルや人の在り方の発達段階の視点から考えることの大切さを知ることができました
- ・未熟な状態で産まれてくる意味から成長していく中での大切な事がすぐわかりやすかった。改めて子ども1人ひとりの事を観察し、理解したいと思いました
- ・子どもの問題行動を、心の発達の3本の骨組みという説明をいただき、よく理解できた。先生の being に視点を当てた子どもたちとの向き合い方に、心を打たれました
- ・問題点を数えるのではなく、どうしてそれをするのか？どういった意味があるのか？を見つけるのが大事と聞いて、見方を変えてみようと思った
- ・ひとりの親として、子どもを育てること・子どもを自立させることが、自分自身の重要な役割であることを改めて認識することができました。貴重な機会をいただき、ありがとうございました
- ・子どもに関わるうえで自分のこれまでを振り返ったり、気持ちの安定があってこそ、子どもにもプラスになると実感しました。色々な子どもの顔を思いうかべながら聞いていました。「わかった気にならない」時々思い出して援助を考え直していきたいです。ありがとうございました
- ・“積み残された課題を連携しながら補完し、次へつなげる”という言葉に、非常に勇気づけられました
- ・今まで受講してきた研修(発達関係)よりも深い内容で、全体的に興味深かったです。少し難しかったですが、支援者としてどう関わっていけば良いか、ヒントをたくさんもらいました。ヒトと動物の違いの話が一番面白かったです。有難うございました
- ・3本柱の積み方がとても理解しやすかった。コミュニティ=より所をしっかりと認識して、発達障害や愛着障害を持った子どもが来てくれる居場所になれるように、もっと自分たちの強化が必要だと思った
- ・発達障害に特化したものではなく、一般的な心の発達と対比してお話して下さったので、理解が早くできイメージがつかめました。愛着障害についてもお話して下さったので、自分の知識が広がりました
- ・職場でも、子どもをチェックして対処療法に行動の変容を求めようとする人たちが増えている。変われば出来るようになればいいと、浅い、表面的な変容が求められていることへの違和感は、真つ当な感覚と実感できた
- ・自尊感情が低下すると、どんな行動に出るかや、自尊感情を取り戻すために必要なコミュニティ(居場所)の条件について知れて、大変勉強になりました
- ・発達障害の子どもへの対応だけでなく、我が子への対応も全く同じだと感じた
- ・子どもの見方を多角的に見ていくことの大切さを再認識することができました。具体的に説明して下さり、子ども達がどこでつまづいているために今のような状況になっているのか、それぞれの子どもたちの顔を思い浮かべながら考えることができました
- ・子どもを視る視点には角度があるということを知れてよかった。とくにあり方(being)からみることは、自分にとって目からウロコでした

- ・発達障害でも愛着障害でも根っちは同じ。子どもにとって大切な大人であること。そこにいてもよいという存在の必要性。3本の柱ののびにくい子ども達が少しでも居心地よく成長できる場所になることを、コミュニティ・社会で支援していく、わかりあっていく必要があるということが、すっきりつながった
- ・子どもが不登校になり、親としてもしんどいなと思う中、自尊心を養うための寄り道という言葉聴いて、スツと心が軽くなりました
- ・自分にとって大切な人が、いつでもいるというごく普通のことが、本当に大切なことであるという事を改めて思いました。思春期は子どもも親にとっても、どう接していいかわからないが、コミュニティ・信頼している友だちなどから、社会性や対人関係、自律が育っていったなと思いました。どこまで手を離したらいいか難しいなと思いました。手を離しすぎると不良？になってしまったり・・・
- ・大学生の子ども母です。今一番聴きたかった話でした。子どもにどう接したらいいのか、何が大事なのか・・・doingではなくbeing。本当に涙が出ます。出来ない事や人と違う事ばかり気になり、子どもに言うところでした。「コミュニティ・心を育てる者として大切な事とは」「損・得で伝えてみる」参考になりました
- ・心の発達の3つの柱を聞き、自分たちが仕事でたずさわっているところは、本当に土台になるところだと改めて感じました。問題点を解決ではなく、どう周囲がサポートしていくのか・・・。もっと周りが発達障害について、当たり前理解できる世の中になれば過ごしやすくなるのかなと感じました
- ・心を“育てる”者として大切なことの中に、支えのある安定感の中で子どもと向き合うことという話がありましたが、安定感の中ということがとても大切だなと改めて感じました。日々子どもに安定感の中で向き合っているかなと考えさせられました
- ・小規模・少人数での保育をしていますが、気になる子・個別に支援が必要であるとされる子が多いような気がしています。どうして？なんで？と感じ、可愛いはずの子どもにイラ立ちを感じることも少なくありません。一人ひとりの存在を認め受け入れることの大切さを、改めて感じました。受け入れる側の人間である限り、子どもが居やすい場所・環境を作っていくことに、もっと意識を高めたいです
- ・保育とはまた違った視点で、発達障害についてであったり、心の発達支援について知ることができた。又、小学校に上がるまでに身につけておくべきことなども詳しく知ることができて、とてもよい経験になった。人を育てることよりも、心を育てる大切さであったり、大切さにも気付くことができた
- ・発達障害の理解の幅が広がったように思います。子どもの近くにいる存在として、一人ひとりをしっかりと見つめ、大切な存在であると感じてもらえるような支援をしていければと思います。doingではなくbeing
- ・話がとても分かりやすく、これからの保育の現場に役立てていこうと思いました。発達障害の子どもたちを理解し、居場所を見つけてあげられるようになりたいです。先生の最後の言葉“主役は子どもだ”という言葉は、心に響きました
- ・心の支援、親じゃないけどこの人だったら自分の要求を満たしてくれる、困ったら助けてくれるという人の存在が大切であるということを知れてよかった
- ・日々悩みながらの保育ですが、私自身が子ども達にとってよりよいコミュニティの中の一員として、子どもが安心して過ごせるように、よりよく寄り添っていけるようにしたいと、お話を伺って再度思いました
- ・子どもを育てるのは、親・特定の人だけではなく、コミュニティ全体で育てていくことが大切だということを感じました。子どもにとっての1つの安全基地でありたいと思います
- ・あまり馴染みのない愛着障害についても知れてよかった。子どもにとって大切な大人であり、支えのある安定感の中で子どもと向き合うことができる保育者になりたいと思った
- ・心は目では見えないものなので、意識して心を育てることの必要性を学ぶことができました
- ・具体的な支援方法ではなく、大元となる3本の柱やdoingだけを見てしまうのではなく、beingを視点にした考え方を知ることができてよかった。発達障害の表面的な部分にしか注目できていないと感じさせられました

- ・行動の中にある背景や、その段階を見極めることはとても大切です。見極めるための情報収集や観察がかなり重要であるとおもいました
- ・精神科の先生が、中心を子どもに置き、その子をどうみるかによって支援が変わる。そう言って下さったことに感動を覚えました。その子の行動のウラにあるものへの支援がとても大切だと思うからです。とてもよく理解出来ました。質疑応答は、とてもよかったです
- ・副題になっている～わかった気にならない子どもの理解～という点について、大変学ぶべきことが多くありました。“発達障害”という言葉の認知度があがった一方で、学校現場では「AD/HD だから」「ASD だから」と診断することで、理解するつもりになっている様子が気になっていました。本当は、今日の田中先生のお話のように、doing から being へと捉え方や理解を深めるための“発達障害”の理解であるはずなのに・・・日々そういう思いでいたため、今日のお話を拝聴し、自分の思いが整理できました
- ・レジュメが適確で、内容がつながりやすかった
- ・乳児期に獲得される発達の骨格が、その後の発達を支えていくライフスタイルの基礎となるというお話がよくわかりました
- ・“発達障害の子”としてではなく“その子の在り方”を中心に理解しようという視点や、自尊心を保障するためのより所の重要性は、今後子どもと関わる上で参考になりました。また、心を育てる者として、自分自身がまずコミュニティの中に根をおろすことができているか、改めて考える機会になりました
- ・素直さ、自由さに対するの回答、ありがとうございました。今日は来させてもらってよかったです

#### 要望・改善して欲しい点について

- ・マイクの音量をもう少し大きくして欲しかった(後ろのほうが少し聞こえにくかった)
- ・お話をきいて、どういったことが大切か(安心出来る居場所・その子の理解等)そういったことは、何となく分かります。でも、まだ障害児なの？と疑いの段階の子ども達を、どう導いていくと成長したり成功したとか、障害児だがここをこうすることで安心感・自己肯定感がもてるようになったなどの体験話が繋げてあるといいと思いました
- ・良かったが、もう少しどのように関わっていけばいいかというところを知りたかった
- ・特にありません
- ・発達障害の子どもへの必要な援助を、コミュニティの中でしていくことと、先生の話からうけとめましたが、その辺りの説明を具体的に聞きたかったです。少し話が難しい部分(精神医学の知見から)があり、その点をもう少しわかりやすく話してほしいです
- ・スライドが黒くて見にくいところがありました。資料があつたのでいいのですが・・・
- ・先生の体験をもっと聞きたかった。色々な子どもの特性を教えて欲しかった
- ・質問コーナーを長くしてほしい
- ・英語で書いているのが多く、理解をするのが難しかった

#### ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・色々なところで講演(特に学校等)を行って欲しいです
- ・ポラリスのことを余り知らない保護者も沢山います。「県民の友」や「市報わかやま」などの広報誌やテレビ・新聞などで、広く紹介してほしいです

- ・不登校の子への関わり方で、大切に考える点など教えて欲しいです
- ・先生が悩んだ時(子どものことで)、園とも方針が合わない、保護者とも合わない・・・というような時に、相談させてもらえると嬉しい
- ・診断されて進学をして、社会へすすんでいくライフステージの課題について、もう少しわかりやすくしてほしい
- ・親子関係
- ・それぞれの関係者が交流して、情報や考えを共有できる身近な場があれば良いと思う
- ・発達障害者支援基本法を元に、一般の人々へのアピールを願います
- ・大人の発達障害についての具体的な支援についてわからず悩んでいます
- ・放課後デイサービスに携わっています。個々の子ども達のトリセツが欲しいと感じます。どう声かけをしていくか・・・悩む事が多いです
- ・発達障害という言葉が市役所の職員の中でもある意味差別用語でつかわれています(理解のない人)
  - 少し変わった人を職員間で呼ぶ場合があります。このため、もっと世間に言葉だけでなく内容までひろめてほしいです
- ・ポラリスの支援や活用法がわかりにくい。何をどうするところなのか？具体的に教えて欲しい
- ・ベーシックな内容、人として当たり前のことを講演で何度もくりかえされるのは、それだけ、人の尊厳が守れない支援者・教育者が多いのだと思います。障がいがなくとも生きにくい世の中です。どうすればいいのだろうかと思います。豊かな支援者・教育者を育てるプログラムはないのでしょうか

### 次回以降の講演会への要望

- ・今後も、定期的に発達障害のある子どもが生きていきやすいような講演等をしていただきたいです・気になる子(ネグレクト)、子どもと親との関わり方や対応の仕方について
- ・初めての参加でしたので、普段どういったものがあるのかわかりませんが、ワークショップなどもあったら参加したい
- ・日曜日に開催していただけるとありがたい
- ・思春期の関わり方・進学・進路について
- ・発達障害について。ADHDについて詳しく知りたいです。薬の使用について等
- ・愛着障害について理解を深めたいです
- ・親が子育てしにくい状況への支援はどうするか？地域もむずかしい
- ・今日のテーマをより深く理解したいです
- ・佐々木正美先生・竹田契一先生の講演が聞きたい
- ・実際現場で(保育園)(集団生活の場)発達障害や愛着障害の子に、どういった関わりをすればよいのか知りたい。集団の中で、一人担任でもできるような関わり方を知りたい
- ・学校現場で、障害を持つ子どもたちと日々向き合っています。愛着障害で、大人に反抗的な態度をとり続ける・・・かと思えば、手をつなぎにすりよってくる子、スペクトラムでこだわりが強く、思い通りにならないと逃走・他害する子。心によりそってあげながら、学習も進めていかなければなりません。困った行動のとらえ方、対応の仕方など、具体的な支援方法も知りたいです
- ・幼稚園や保育園など、“コミュニティ”の先生が、子どもを肯定的に受け止められるようになる理解を深めるための講演などあれば聞きたいです
- ・近藤直子先生
- ・多くの保護者の人が聞けるよう、園でも講演してほしい。先生たちも、もっと理解すべきだと思う

- ・「集団」か「個」か、視点が変われば対応が変わることに困っています。「集団」を育てる、「集団の中」で育てる難しさを感じていたので、少しムリが出てしまい保護者の理解が得られなくなってしまって
- ・自傷行為への対応、支援、改善等(リストカット等の自傷行為だけでなく、重度の自閉症患者が引き起こす自傷についての改善策や対応策を知りたい)
- ・本日の講演の、具体例(実践例)について、詳しく教えて頂きたいです
- ・具体的な症例をあげて、どんな対策で効果が上がったのか、医療(薬の服用の手助け)を伴った効果や具体的な支援法を知りたい。人は10人十色で同じことはないけれど、思春期～成人～社会人の時期を過ぎていくのに、うまくいった・うまくいかないサポート等を知りたいです
- ・講演会形式も良いが、ポラリスさんの事例を発表する etc 日常の実践に直結するような内容もお願いしたい
- ・防災の講演も聞きたいです
- ・子どもが学校を出て、社会に出て自立していった時の支援や、どう生きていったらいいのかとかの話を知りたいです
- ・ADHD の子どもを自立させるために必要な事を教えて欲しい
- ・学童期から青年期に向って行く子どもたちに対する支援方 etc
- ・療育のこと
- ・発達障害児の学習ツールについて知りたいです
- ・子どもと関わってくれる保育所・学校の先生や塾・習い事の先生、友だちの親などとの関わり方や、上手い説明の仕方などが知りたいです
- ・発達障害の子ども、発達障害かもしれない子どもたちの就学に向けた困りごとや、親がどういうふうに関わりを選択したらいいのかなどのアドバイスを聞いてみたい
- ・有田市でもお願いします
- ・自閉スペクトラム症に関する詳しいお話を聞きたい
- ・発達障害と精神障害について
- ・発達障害と知的障害について
- ・特性理解へのアセスメントについて(本人の方向性理解・特性の理解の進め方)
- ・子どもが(発達障害の)大人になるまでにしておいた方がよい事などを教えてもらいたい
- ・感覚の話も聞きたいです
- ・発達障害を持った人たちが社会に出るにあたり、受けることのできる支援について。親支援について
- ・いろんな問題行動についての対処の仕方・関わり方
- ・TEACCH 研修

## アンケートに対する回答

・ASD の子どもに対してわかりやすい話し方が難しくて悩むことが多いので、スクールカウンセリングを受けたりしていますが、思うように出来ず、同じ悩みを持つ親との交流会があればと思います

→ 和歌山ペアレント・メンター協会という発達障害の親の活動があります。不定期開催ですが、親同士の交流会も開催しています。ペアレント・メンターの活動内容等につきましては、

 で検索してご参照下さい。

・学校へ行っていると建前上、質問にいきにくい。学校を通してでないといけない感じになっている。学校に問題があってもそれではいけないと思うのですが、相談に行っても良いのでしょうか？

・ポラリスの先生が学校に来てくれて先生と話しをしてくれるのはうれしいのですが、そこに親も一緒に話に入る事は出来ないのでしょうか？

・小学生の娘が発達障害ですが、教師の方々の理解や配慮に疑問があります。ポラリスさんから学校の先生への働きかけなどはできないのでしょうか？

→ ポラリスでは、学校または事業所への機関コンサルテーションや研修を、原則学校または事業所からの依頼で実施しています。

保護者・学校(事業所)・ポラリス三者での相談は、両者の希望があれば可能です。

また他にも、『障害児が集団生活を営む施設や学校』を訪問することができるサービスがありますので、お住まいの市町村・福祉課にお問合せ下さい。

・支援学級に療育を受けずに小学校へ入っているお母さんたちに、案内を出せたら良いのになあ。中学校入ったらころっとかわるので、ポラリスの存在がとても大切だと思います。学校を通さず相談のできるところがあるといいなと思います

→ ポラリスは保護者の方から、直接ご相談いただくことも可能です。その他福祉関係の各種相談機関については、  で検索して下さい。

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を、  
これからの活動に活かしていきたいと思えます。

どうもありがとうございました。